

STRUM

シュトゥルム

第51号

2021年3月31日発行

ようやく緊急事態宣言も解除され、桜が咲き、まだ予断を許さない状況の中にも、いつものように春は訪れます。エアジンのライブは大好評！店内のお客様の人数は制限されても、配信では多くの方々がバッハとピアソラを楽しみました。マリンFMの番組パーソナリティも決まり、新しい形での活動が見えてきた、期待膨らむ春になりました！



近況報告

コロナが猛威を振るい始めてから早1年、ステイホーム、日本から出られないこと、パフォーマンスが制限されることの窮屈さにいまだ慣れないながら、何か新しくヴァイオリン演奏の楽しさを伝えられるツールはないかなと考え、地元のラジオ局で、生演奏ありの30分番組をこの4月から始めることになりました。30分間生放送で2曲の生演奏と、ヴァイオリンや音楽、そして留学のことを話す番組は、今までなかったのではないかと、途中で言葉が出なくなったらどうしよう・・・と少し緊張しつつ、新しい試みにわくわくしています。

番組に向けて、ウィーン留学当時のことなど、いろいろと回想しているうちに、ウィーンで桜が咲くと（ドナウ川沿いや、日本庭園に日本から送られた桜の木があります）シェーンブルン宮殿にニラをつみに日本人たちで繰り出していたことを思い出しました。広大な庭の奥まったところの丘に、大量のニラが群生していて、ウィーンでは日本人以外誰もニラを食べないので、取り放題、ただし猛毒の西洋ヨモギと見た目が似ているため、真剣に選りすぐらなくてはならず、パピリオンに向かう観光客を横目に、手にビニール袋を持って丘をさまよう姿は今思えば、少なからず滑稽だった（そして違法だったのではないかと）、でも何だかんだ言いながら、ヨーロッパの東の小国で必死に生活をしていたのだと久しぶりにウィーンに足を運びたくなっています。

【伊都】

横浜エアジン 2021 『バッハとピアソラ祭り<春>』

桐朋学園出身のエアジンオーナー梅本氏が一流の演奏家を集めて毎年開催しているこの企画、常連の伊都さんは今年は前半 バッハ「無伴奏ヴァイオリンのためのパルティータ第2番ニ短調 BWV1004」全曲を演奏しました。その中でも最後の曲は特に有名な「シャコンヌ」。高い技術と深い表現力が問われる難しい作品ですが、伊都さんの「シャコンヌ」は何度聴いても、心の奥底に響く深さを感じます。他の誰の「シャコンヌ」とも違う伊都さんならではの表現が際立つ演奏です。配信のサイトの書き込みでは「素晴らしすぎるとしか言いようがない演奏」と高評価を頂きました。

後半は打って変わってピアソラの情熱的なタンゴの世界。昨年のリサイタルで共演した森田義史さんを迎え、伊都さんのクローチアでの思い出の曲「オブリビオン（忘却）」や「ブエノスアイレスの冬」など6曲を演奏。配信の映像では数台のカメラを切り替え、森田さんの華麗なピアノ演奏の手元も映し出されました。

アンコールはやっぱりこれでしょ！「リベルタンゴ」。息の合った流れるようなセッションに、店内だけでなく、配信の映像の前でも思わず拍手！！でした。





マリン FM で生放送番組のパーソナリティ決定！

加納伊都の Close To The Violin

4月6日より毎週火曜日のお昼に放送

12:30~13:00 生演奏をしながらの30分生放送番組が始まります!!



伊都さんの地元、横浜市中区本牧に令和元年に開局したマリン FM。現在は石川町やハンマーヘッドにもサテライトスタジオがあります。中区を中心としたコミュニティ放送局ですが、横浜らしい文化を地域から全国へ、世界へ発信したいと願っているそうです。

ラジオ番組のパーソナリティという初めての試み、トークに生演奏！どんな番組になるのかとても楽しみです。生まれ育った地元から、ラジオというメディアを通して、伊都さんをまだ知らない多くの人たちに、ヴァイオリンの魅力だけでなく伊都さんらしい様々なメッセージを発信してくれることでしょう。

▶ PC・スマホでmarine FMを聴く

 ListenRadio

カテゴリから「全国のラジオ局」→「マリンエフエム」を選択
スマホ・タブレットでは無料アプリをダウンロードします。

番組は、中区、西区、南区、磯子区の一部以外からでも、スマホやパソコンで気軽に聴くことができます。スマホやタブレットが特に便利！上記「Listen Radio」の無料アプリをダウンロードしてホーム画面の下部にある「選局」ボタンをタップし、「マリン FM」を選んで下さい。タイムテーブルはマリン FM ホームページをご覧ください。

<http://www.marine-fm.com/>



DVD Classic Collection

作品 No.43

「マイ・バッハ 不屈のピアニスト」

ピアニスト ジョアン・カルロス・マルティンスの実話

2017年 ブラジル



あらすじ

幼い頃からピアノの才能を開花させたジョアンは13歳で演奏家として活動を始め、20歳でカーネギーホール舞台に立ち「20世紀で最も偉大なバッハ奏者」と称され世界で活躍していた。が、自ら招いた不慮の事故により右手の3本の指に障害を抱えてしまう。リハビリに励み、自身の代名詞とも言えるバッハの全ピアノ曲収録という偉業に挑戦するが、またしても不幸に見舞われる。

見どころ

2016年のリオパラリンピック開会式で両手の3本の指で国家をピアノ演奏し、世界中の感動を呼んだジョアン・カルロス・マルティンスの実話映画化。度重なる不幸で両手に障害を負いながらも不屈の闘志で彼は音楽を諦めなかった。演奏シーンはすべて本人の音源が使用され、その超絶技巧の描写も見どころ。伊都さんが弾いた「パルティータ第2番二短調」始めバッハの曲が数多く聴ける。

感想

ピアノが弾けなくなった後、指揮の勉強をしてオーケストラを指揮していたが、昨年80歳になった彼は、現代の技術を駆使した「魔法の手袋」を装着して20年ぶりに両手の9本の指でなんと、再びカーネギーホールでコンサートをした、という後日談がある。また、基金を設立し音楽を志す多くの若者の支援をするなど、益々の活躍ぶりに真の音楽愛を感じる。R15+指定はラテンの国のご愛嬌か？

*DVDはTSUTAYAの店舗でレンタル可能な作品のみをご紹介します

編集後記 バッハのイメージとしては完璧、勤勉、理性的というような言葉が浮かびますが、伊都さんのバッハを聴くと情熱、魂、感情といった正反対のイメージが湧いてきてバッハは面白いなと思います。/エアジンのライブ配信は予想以上に臨場感があり、オーナーの梅本氏が音響や映像に力を入れておられることがよく伝わってきました。11月のリサイタルの時もそうでしたが、この演奏はここだけでは勿体ない！世界中の人に是非聴いてほしい、と願わずにはいられません。コロナ禍での忍耐やアイデア、新たなチャレンジが今後の大きな飛躍の礎となるかもしれませんね。/伊都さんだけでなく凡人の私たちもまた、この窮屈な災いを転じて福と為す、かどうかが試されているのかもしれません。/伊都さんのラジオ番組が始まるのはとても嬉しいニュースですね！電波が広く届く時代、何でもアプリアプリですます小さな箱(スマホ)の役割は大きくなりそうです。 <ゆ>

発行：加納伊都後援会 TRAU BEN

〒231-0835 横浜市中区根岸加曾台 15

TEL：045-622-6780

FAX：045-621-6423

Email：trauben@itokanoh.com

Homepage：itokanoh.com